

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	尼崎市立たじかの園		
○保護者評価実施期間	令和7年11月16日		令和7年12月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31名	(回答者数) 16名
○従業者評価実施期間	令和7年11月16日		令和8年1月12日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	25名	(回答者数) 24名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月27日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	毎日の打ち合わせ、振り返りを徹底していること	打ち合わせ、振り返りともに時間を決めて行っている。朝はその日の療育に入る職員で日案に沿ってねらいや職員の動きを打ち合わせている。振り返りは入った職員はできるだけ全員参加して、こどもたちの姿や支援方法、保護者の様子等も確認し、共有するとともに次回の支援につなげるようにしている。	より有意義で発展的な打ち合わせになるよう、不明な点は質問したり、気になることは遠慮せずに意見交換ができる環境を一人ひとりが意識して参加する。
2	個別支援計画の作成を丁寧に行っていること	担当が保護者からたじかのっこシートなどでニーズや課題を聞き取り、児童発達支援管理責任者と担当が中心となり、担当セラピストの意見も参考にしながら立案している。また、定期的にモニタリングを行い、適切な見直しを行っている。	共通理解の下での作成を心がけているが、ケースカンファレンスの機会を検討していく。
3	季節の行事や家族参加の地域交流の行事を充実させていること	今年度のたじかのっこ交流会は交流と発表を目的に実施し、100名を超えるご家族に参加していただき、好評を得た。秋のバス遠足では、医療的ケア児には介護タクシーを準備し、看護師も同乗し安心して参加できるようにした。また、地域の高齢や保育所との交流も行っている。	季節ごとの行事やたじかのっこ交流会等の大きい行事への家族参加のあり方を検討していく。(EX:いもほりに父を誘う、ファミリー登園について検討する等)

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	懇談や休息等に必要部屋数の確保が難しいこと	指定上の面積基準は満たしているが、部屋数の少なさやセンターとして他の事業も並行して行っていることから、個別の懇談や休息に必要な部屋が確保しにくい。	簡易な間仕切りの使用や曜日時間帯の工夫は継続するが、改修等が可能か市に対して問題提起していく。
2	感覚面に特性があるお子さんに適した環境設定が難しいこと	旧肢体不自由児通園施設のため構造的に古く、肢体不自由児に合わせているため、構造化が難しい。	現状できる範囲の工夫を継続するが改修等が可能か市に対して問題提起していく。
3	幅広い年齢のきょうだい支援の仕組みが整っていないこと	0歳児で保育所入所が困難なきょうだいの託児には対応しているが、場所と職員の確保が難しいため、臨機応変な対応は難しい。	他施設ではどのようなきょうだい支援をしているのか調べて、自園でできそうなことを検討する。また、保護者からの兄弟の個別の相談には引き続き、対応していく。